

行政事業レビューシート (内閣府)						
予算事業名	内閣本府庁舎等施設の整備に必要な経費		事業開始年度		作成責任者	
担当部局庁	大臣官房		担当課室	会計課	別府充彦	
会計区分	一般会計		上位政策			
根拠法令 (具体的な条項も記載)			関係する計画、通知等			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	内閣府本府庁舎は昭和37年に建設され、庁舎の老朽化による建物の耐震性並びに経年劣化による諸設備に影響がでている。また今日の内閣官房、内閣府の業務量増加に伴う狭隘による円滑な業務の執行に支障を来しており、執務環境の改善、危機管理等緊急事態への対応、高度情報化への対応等、基本的な庁舎が持つ性能を確保する整備を行う。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	通常の耐震改修は、建物を構成する柱及び壁を補強して耐震性能を向上させる方法であり、改修にあたり執務に支障を生じてしまうことから民間ビル等への移転を行なった後に工事を行う事例が多いが、本庁舎は執務機能を移転することが困難なことから本庁舎を使用しながら耐震改修が可能な基礎下免震工を採用した。今回の工事は、建物の構造体補強は国土交通省の「官庁営繕費」で実施され、本予算は構造体以外の耐震改修工事に不可欠な非構造部材並びに建築設備等の耐震改修を実施する。 併せて、本府庁舎内のエレベータについて、ハートビル法制定後の基準に適合するものに更新する。					
実施状況	庁舎耐震改修工事は平成21年度末に終了する予定であったが、予期しない地下埋設物が発見されたため、平成22年9月末まで工期延長した。 また、エレベータ改修工事は全4台のエレベータを2台づつ更新し平成21年度末に完成する予定であったが、実際の運用状況から、1台づつ更新することとした。このため、平成22年10月末に完成する見込みである。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	512	1,207	836	335	484
	執行額	505	1,090	475		
	執行率	98.6%	90.3%	56.8%		
	総事業費(執行ベース)	505	1,090	475		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	支出先については全て把握できている。 工事の進捗状況については、請負者側から毎月の進捗状況並びに日々の確認検査を工事監理を受託している日本設計の監理職員が現場検査等を行い、その報告並びに確認を行っている。更に国土交通省の監督職員が巡回により請負者側及び受託監理者からの報告等、進捗状況を把握している。工事完了時には監督職員とは別の検査官が書類及び現地検査を行っている。				
	見直しの余地	調達に際しては、経費節減のため原則として一般競争入札を実施している。なお、随意契約となっている契約について、それぞれの随契理由は以下のとおり。 ・B. 機械設備工事: 一般競争入札に付したものの落札者が無かった(2回)ため、不落随契となったもの ・D. 工事監理業務: 一般競争入札により調達した工事全体の設計業務に付随する業務であり、特命随契としたもの また、工事計画の策定後も工法を見直すことにより、事業費の節減を図った。 今後、新庁舎整備(中央合同庁舎第8号館)に関連し、既存施設における諸設備(ITV設備・非常放送・自火報設備等)については、耐用年数が近づいてきており、また現行関連法令との適合性を図りながら、中長期的に改修計画を立案し、緊急度の高いものから実施していく。				
予算監視の効率	既存設備の耐用年数や老朽化の状況等を見据えた全体の改修計画を年度毎に立てた上で、整備の優先順位・緊急度を精査し、概算要求に反映させるべき。					
補記	○予算の状況欄 ・平成22年度予算額は前年度からの未契約繰越額(26百万円)を含む。 ・平成21年度予算額(補正後)から翌年度への繰越額を除いた場合の執行率は、56.8%である。 ・平成21年度の差額は、庁舎耐震工事の工事計画の見直し(免震工法見直し)による節減と、一般競争入札による入札差金である。					

内閣府
475百万円

【支出委任】

国土交通省
475百万円

【一般競争入札】

A. 大栄電気(株)
169百万円

〔電気設備工事を担当〕

【一般競争入札】

E. 日本オーチス・エレベーター(株) 関東支社
160百万円

〔エレベータ更新工事を担当〕

【随意契約】

B. (株)クリマテック
42百万円

〔機械設備工事を担当〕

【一般競争入札】

C. 清水建設(株)
99百万円

〔建築その他工事を担当〕

【随意契約】

D. (株)日本設計
4百万円

〔工事監理業務を担当〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

〔四捨五入の関係から合計は合わない〕

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につ
 いて記載する。
 使途と費目の
 双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
工事費	電気設備工事	169	工事費	エレベータ更新工事	160
計		169	計		160
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
工事費	機械設備工事	42			
計		42	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
工事費	建築その他工事費	99			
計		99	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
役務費	工事監理業務	4			
計		4	計		0